

# 元気、勇気、やる気！

## 子どもって素晴らしい

日 時 平成 19 年 7 月 3 日 (火) 午後 1 時 ~ 午後 3 時  
会 場 東京・アルカディア市ヶ谷 (私学会館) 3 階「富士の間」  
主 催 財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構  
後 援 文部科学省  
協 力 全日本私立幼稚園連合会  
全日本私立幼稚園 PTA 連合会

### 第 1 回子育て支援フォーラム

#### シンポジウム『子育て、本当に楽しいね』〈概要報告〉

去る 7 月 3 日、東京・アルカディア市ヶ谷 (私学会館) において(財)全日私幼研究機構の主催による第 1 回「子育て支援フォーラム」(後援=文部科学省/協力=全日私幼連・全日私幼 P T A 連合会)が開催されました。このフォーラムは同財団が本年 3 月から 10 月まで展開中の「家庭・地域の教育力向上キャンペーン」(全国に三万枚のポスター掲示)の一環として企画されたもので、ネットを通じた告知などにより、全国各地から大勢の保護者、幼稚園関係者が参加して盛大に実施されました。

フォーラムでは、学識経験者や保護者等の意見を交えながら、「子育ては楽しいもの」「子どもを大切に育てよう」「幼児期の教育は大切」「家庭や地域のことを考え直そう」等の観点から、子育てについてのシンポジウムを行ないました。

#### シンポジスト

徳田克己 (筑波大学大学院教授)

篠原孝子（文部科学省初等中等教育局幼児教育課教科調査官）

斉藤慶子（保護者代表・女優）

田中雅道（財全日私幼研究機構副理事長）

コーディネーター

前田邦光（財全日私幼研究機構調査広報委員長）

## ○前田

今日は『子育てって、本当に楽しいね』というテーマの下で、シンポジストの先生方から子育てに関するいろいろなお話を引き出していきたいと思います。お話の筋立てとしては、まず最初に自己紹介を兼ねながら、これまでどんな思いで子どもを育ててきたかということをお話しいただきたいと思います。次に、子育ては楽しくありたいと思っても現実はなかなか厳しい。そこで子育てのどんなところが苦しいのかということをお話したいと思っています。そして最後に、現在の私立幼稚園は地域社会の子育て支援をしていくことが大きなテーマになっていますので、そのために幼稚園はどのような取り組みをしていけばよいのかということをお話し合っていきたいと思います。では、徳田先生からお願いします。

## ○徳田

私は筑波大学大学院で学生を指導しています。子ども問題のカウンセリングが専門で、子どもに関する悩みや心配事の相談を受け、問題の原因を相談者と一緒に考えていくのが私の仕事です。私の子どもは今、高校3年生の娘と中学2年生の息子の二人です。娘は不妊治療の末にやっと授かった子どもなので家内も私も舐めまわすように育てました。男親の私はいつも娘をひざの上に乗せヨシヨシと可愛がりました。しかし、そんな接し方を娘が中学生になる頃まで続けたのが間違いでした。娘はどんどん成長し、ベタベタしようとする父親を「ウザイ！」と切り捨て、口もきいてくれなくなったのです。男親は娘の成長に追いついていけ

ない、娘との距離感を間違えたとは今はとても反省しています。

## ○篠原

私は現在の教科調査官の職につく前は公立幼稚園の園長をしておりました。たくさん親子の姿を見ながら今、27歳の息子と20歳の娘を育ててきました。私が子育てをするに当たって心に決めたのは、自分が親に育てられていた時にうれしかったことは同じように子どもにしてあげたい、逆に嫌だったことは決してするまいということでした。

私は出来の悪い子でしたから親に「勉強しなさい」と言われるのが一番嫌でした。ですから子どもにそう言うのだけは絶対にやめようと決めたんです。人生には一度や二度の頑張り時が必ずありますから、その時がくれば子どもはやる気を出して勉強してくれると思ったのです。その頑張り時は高校受験の際にやってきました。自分の行きたい高校に入るため、子どもは初めて自分から真剣に勉強に取り組み、何とか入試を突破したのです。その時、子どもを信じてきてよかったなと思いました。

## ○斉藤

私の一人娘は今、小学1年生で、3月までは幼稚園でお世話になっていました。娘も私も一人っ子同士、通じ合うものはありますので、できるだけ娘と同じ目線でいろいろなものを見たり、経験したりしてあげたい。そしてその中から娘の個性を見出し、伸ばしていけたらいいなと思っています。親の背中を見て育つとか、尊敬される親になるとか、そういうことも大事だとは思いますが、そこまでの親になるのは大変です。頑張りすぎて気持ちが閉鎖的にならないよう頼れるものがあるならできるだけ頼って、自分の中での風通しを良くしながら子育てをしてきたつもりです。

## ○田中

私は京都市で私立幼稚園の園長をしています。幸いなことに私は三人の子どもを授かりました。一番上の娘は今年、大学を出て就職しました。幼稚園の仕事をしてほしかったのですが、自分は命を預かる仕事は怖くてできないと言って銀行に勤めてしまいました。下の二人は男の子で、上が大学3年生、下が高校3年生です。二人とも高校野球児となり、私とは違う人生を歩もうとしていることに親として期待した部分もありました。長男は練習中に骨折するなど不幸が重なり、最後の試合の最終回に代打で出場しただけで高校野球を終えました。下の子は今、夏の甲子園大会に向けて予選の真っ最中です。春の選抜出場を9回逆転で逃がしたほどの強いチームなので私も懸命に応援しています。そのような子どもと心を一つにした時間を今は楽しく過ごしています。

## 子育ての大変さを楽しさに変えるヒント

## ○前田

では次に子育ての大変さ、苦しさはどこにあるかという話題に移りたいと思います。徳田先生はカウンセリングを専門にされていますが、最近のお母さん方はどんな問題で悩んでいることが多いのでしょうか。

## ○徳田

多いと言えば、ほめ方叱り方という部分だと思いますが、実際にはお母さん方の子育ての悩みは本当に多種多様です。ただ、問題はいろいろでも本質は理想と現実のギャップに悩んでいることに尽きます。その理想の根拠は何かというと結局、育児書なんです。本に書いてある理想的な子どもの姿と現実のわが子を比べてお母さん方は悩んでしまうんです。そういう意味で子育ての悩み、子どもの問題の多くは親の気持ちの問題だと考えています。

## ○田中

育児書には面白い話があって、日本のお母さんは自分の子どもが育児書と違うと自分の子育てが間違ったと思い、育児書に合わせようと悩む。しかしフランスのお母さんはそういう場合、この本には自分の子どものことが書いてないと判断するんだそうです。要は自分の子どもを見ていることが大事で、育児書はあくまで子育てのヒントを得るだけの存在。それを絶対的なものとして受けとめるからマイナスの面が出てしまうんだと思います。

## ○斉藤

そうですね。私も育児書などを読んで頭で考えるより、子育ては経験が一番大事だと感じています。私は出産が遅かったので周りのお母さん方は皆さん若いんです。でも子育て経験は豊富なので私は素直に皆さんから教えてもらっています。私には私のやり方があるなんて片意地はっているより、その方がずっと楽だし、現実の子育てに役立つんです。お母さん方と仲良くなれば子ども同士も仲良くなって子育てがいっそう楽しくなります。

## ○徳田

子育てにはそういう柔軟な発想が大切です。私がカウンセリングをしていて一番困るのは自分がきちんと育てられたために子どもをきちっと育てようとする母親です。子どもは失敗しないと育たないから、よい親ほど上手に子どもに失敗させるものなのに、そういう母親は失敗を許さないんです。それでは子どもが追いつめられて親子関係は苦しくなります。そんな母親に私は子どもの前でわざと失敗しなさいとアドバイスします。クレヨンしんちゃんのミサエのように失敗して頭をかきながら「ママ、今度は頑張るからね」っていうくらいの方が親も子もラクに楽しくやっていけるはず。漫画とはいえ一つの理想的な母親像です。

## ○篠原

親子関係でいえば、親は子どもの話をきちんと受けとめることも大切ですね。幼い子どもはその日の出来事を言葉にして表すことがなかなかできないので聞きだす工夫が必要です。私の場合、幼稚園の仕事があり子どもと日中は一緒にいられなかったので、お風呂に入る時間を大事にしました。お風呂は子どもの心をすごく柔らかくしてくれて、こちらから聞かなくてもポツリポツリとその日のことを話してくれるんです。そんな習慣をずっと続けていると、小学生になってもフッと自分の本音を出してくれることがありました。毎日少しずつでもそんな時間を過ごせば、子育てがより楽しくなるのではないかと思います。

## ○田中

そういうお話を聞くと、幼児期の子どもに細かく関わってあげられるのは、やっぱりお母さんだと思います。けれども思春期になった時には、とくに男の子の場合、お父さんの役割が大事になります。お母さんは男の子がその時期どう育っていくか知らないですからね。それまでは一歩引いて見守っていても、出番がきた時、父親としての指導力を発揮すれば、お母さんの子育てはずっと楽になると思います。

## 地域の子育て支援につながる手だてとは？

## ○前田

それでは最後に幼稚園が行なう地域への子育て支援というお話に移りたいと思います。田中先生の園ではどのように対応されていますか。

## ○田中

私の園でも園庭を地域の子どもたちに開放しています。最大の理由は地域の中

で子どもたちが安全に遊べる場所というのが幼稚園しかなくなってしまったからです。保育所は夕方以降まで誰かが残っていますから開放しにくいけれど、幼稚園なら一定時間で子どもは帰っていきますから、そのあとで地域の子どもが遊べます。お寺や神社の境内での遊びは今はたいてい規制されていますし、公園も何かトラブルがあった時に解決するルールが決められていないので決して安全な場所とはいえません。その点、幼稚園は地域の人たちに教育の現場であるという共通の認識がありますから、自然に安全の秩序が保たれるんです。これからも地域で唯一安全な遊び場としての幼稚園の位置づけを明確にして、地域の子どもたちに異年齢のゆるやかな関わりを保障していきたいと思っています。

## ○斉藤

私の娘は小学校に入りましたけど決して幼稚園のことは忘れていません。この間も幼稚園の同窓会がありましたが、娘はその日がくるのを指折り数えて待っていましたし、当日は久しぶりに会った友だちと大はしゃぎしていました。その様子を見て幼稚園の思い出は娘の心の中に深く確実に刻まれているんだなと思いました。そんな意味からも、幼稚園はいつまでもその場所にあり、いつでも訪ねて行ける場であってほしいと思いました。

## ○篠原

そうですね。幼稚園が子どもたちの心の故郷になるというのはとても大事なことだと思います。そして園庭が在園児の保護者の方にとっても、地域の保護者の方にとっても安全で居心地のよい遊びの空間であってほしいと願います。さらにその遊びの中に親や地域の方も一緒に参加して、例えば誰かが昔の遊びを教えたり読み聞かせをしたりするようになれば、もっと素晴らしい遊びの空間に発展すると思います。そういう出会いを広げて地域の中のネットワークづくりをすることが、幼稚園の果たす役割として今後、期待されることの一つだと考えます。

○徳田

幼稚園は、子どもも保護者も地域の人も包み込むような大らかさで受け入れてほしいと思います。

○前田

今日は貴重なご意見をありがとうございました。以上でシンポジウムを終了させていただきます。